



守る！逃げる！判断して行動する！

感染症 その6

いっしょに考えていこう～BCP～

☆令和5年12月末から令和6年1月に発生した新型コロナ感染クラスターについてふりかえり

人手不足なことが日常になっている中、発生してしまったクラスター。ケアに当たる職員も合計6名感染し休むことになった。

前回（令和4年8月）のクラスターでは、陽性確定時点で都度感染者の居室移動を行っていたが、結果、もともと同室だった方も感染されることとなり、居室移動の回数が増えてしまった。その後、対応基準が改定され、多床室の場合、一人感染者が出た場合には、同室者はグレーとして、居室内隔離を行うこととなった。今回のクラスターでは、1居室に1名が発症した場合、居室ごと隔離。合計6部屋が感染対応となった。職員の仕事量が初期段階から増えた上、職員の感染により、出勤できる職員が限られた。夜勤勤務をした職員は夜勤明けから発症する確率が高かった。夜勤は一人で全居室を対応するため、ご利用者との接触回数が濃厚で、個人防具を徹底していても防げなかった。今回、冬場ということもあり、換気によって室温調整が難しく、感染治療後に風邪をひいてしまった可能性も考えられた。今後の対応としては、発熱者が1、2名の段階では、できれば個室へ移動隔離。その後陽性者が増えた場合は、陽性者同士を同室にすることで、職員の動線を少なくし、場合によっては、感染した軽症の職員も感染者の対応ができるかもしれないと考える。

その時々での感染状況（感染力や株の違い）などで対応を早期に検討し、臨機応変に対応していきたい。

委員長 佐藤

お祝い誕生日



大田さん（写真左）。99歳白寿のお祝いです。息子さんから桜と春のお花のアレンジメントが届きました。



松本さん（写真右）。90歳のお祝いに家族の皆さんがかけつけてくれましたが、どうしても眠気に勝てませんでした～

研修報告『食機能をダメにする、引き出すアプローチ実技セミナー』
講師 牧野日和氏 報告者 介護士 小滝則子

《主な内容》
・心の構えが体の構えを作り、心の拒否は身体の拒否をまねく。介助を嫌がっていると後ろに引いてしまう。誤嚥しやすくなる。食物をしっかり認識する（心の構え）↓体が呼応（身体の構え）
・食べる尊厳（食べる虐待）と食べない尊厳（食べさせない虐待）でスタッフは葛藤し苦しむ。しかしながらそれが普通。
《感想》 美味しい物を食べる幸せ、当たり前前に感じるこのことが、加齢や何らかの障害によって介助が必要となり、味覚や嚥下機能の低下に加えて、合わない食事介助によって食べることが苦痛になることを想像すると、絶望的な気持ちになります。又、無理矢理の介助だったり、むせて苦しい思いをする、食べることが恐怖にさえなると思います。今回のセミナーを観て、具体的なアプローチの仕方や食事が難しい方への「食べさせる」か「無理をせず食べさせないか」といったリアルな問題に触れた話が聴けて、胸のつかえが下りた気持ちになりました。利用者さん一人一人違うように、介助する側も思いがそれぞれにあつて、何が正解かという問題ではなく、大切なのは、個性を重んじ、みんなで問題を共有して試行錯誤し悩み、その利用者さんにとってよりよい介助に近づいていく歩みなのだと思うことができました。そして、食べる事、口だけの問題でなく、利用者さんの二十四時間の状態や姿勢など、介助する側は環境面や、食事の進め方など広い視野で考えていく必要があることを改めて学びました。

玄関の飾り棚には、ご家族や、職員さんからの春のお花でいっぱい！
ワクワクします！



研修報告『エンゼルケアについて』

講師 株式会社 玉屋 代表取締役 児玉賢司氏
報告者 介護士 重森洋子

《主な内容》 死後処置の目的、死後のご遺体の変化、エンゼルセット、死化粧の役割、効用等

《感想》 今まで和光園でたくさんご利用者さんの生活とお看取りをさせていただき、たくさん考えさせられました。最初のころは、あれをしてあげればよかった、これをしてあげればよかった、もっとやっであげれることはなかったのか等、悔いが残ったことで、人生一度きり、時間は戻せない。だから時間は大切に、後悔ないように。という考え方になり、できることをできる時に実行しています。今はお看取りで後悔することはありません。最近、自分の祖母、義祖母が同じ時期に亡くなり、最期の顔は遺族の記憶に一生残ると言っても過言ではないなどあらためて感じさせられました。和光園で最期を迎えられた方の表情はメイク込みで本当にきれいな顔だな。と思っっています。エンゼルケアは、最期にその方にしてあげられるケアであり、最期の関わり時間もありません。本当に尊いと思います。ご家族にとっては、入所後なかなか会えなく、急変後呼ばれた時、久しぶりに対面したお顔が苦しそうな表情だと、きつと心が痛むかなと想像します。またご家族から、感謝の言葉や和光園でよかったと言っていたら、それは、和光園の職員で良かったと思うし、これが和光園のトータルケアの賜物で良いところだと思っています。

四月三日、理学療法士の井出先生に訪問指導をしていただき褥瘡予防委員会の重森委員長が中心になり、個別対策をまとめました。



あとがき
三月二十三日に当法人の理事会が開催され、令和六年度の事業計画、予算案が可決されました。事業については、本紙一面のとおりに取り組んでいきたいと思っております。予算については、昨年、一昨年のコロナの影響で大きくダメージを受けたことから抜け出せなかったことを猛反省して、立て直しに全力で取り組みます。令和六年度もよろしくお願いたします。

竹